

### 1 要点と要旨

要点とは、各段落（意味段落）の中心となる内容、要旨とは、文章全体の中で中心となる内容（＝筆者の主張）のこと。文章の理解とは、「この文章は何について書かれているか」「筆者の主張は何か」を捉えることにほかならない。つまり、**要点や要旨を捉えることが読解の最終目的だ**といえる。

### 2 要点の見つけ方(1) 問いかけと答えの関係を見つける

要点を捉えるには、筆者の意見や考えが端的に書かれているところを探す。筆者の意見は、具体例の前後（＝「論」が書かれている）や、問いかけに対する「答え」の部分に書かれていることが多いので、これらの表現に注意して読む。

#### 確認問題 1 次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
 実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

（西垣通「ネットとリアルのあいだ」による）

問 「問い」を示す一文に~~~~線を、「答え」を示す一文に====線を引け。

### 3 要点の見つけ方(2) キーワードに着目する

キーワードを見つけることも、要点を見つける手がかりになる。キーワードは、文章内、あるいは段落内で繰り返し使われている言葉である。

#### 確認問題 2 次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
 実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

#### プラスα

↓要点・要旨について、実際の設問では「○字以内で要約せよ」「本文の主旨に合致するものを選べ」「筆者の考えを説明せよ」など、さまざまな形で問われる。

↓論と例の関係や、問いかけと答えの関係を見つけるためには、指示語や接続語が手掛かりになる。これまでに見てきた読解法を組み合わせて用いることが大切である。

#### ヒント

問 「〜とは何だろうか」「では、どうすればよいのか」などの問いかけの形は、筆者の問題意識を表していることが多い。また、問いかけの形があったら、その後に「それは、……」「答えは……」など、答えの形で筆者の考えが書かれていることが多い。

#### プラスα

↓キーワードには次のようなものがある。

- ・ 繰り返しされる語句
- ・ 似た意味／反対の意味の語句
- ・ 文章の題名に含まれる語句

↓「」は普通、会話文や引用を表すが、説明的な文章の中では次のような使われ方もする。

・ その語句を強調する

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(西垣通「ネットとリアルのあいだ」による)

問 この文章のキーワードとして最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 生命    イ 人間    ウ 記号    エ 情報

〔    〕

#### 4 要旨の捉え方・まとめ方

要旨は、要点としてピックアップした内容の中からさらに中心となる内容に絞り込み、その文章全体が伝えようとしていることをまとめたものである。

● 読解の基本的なプロセス

段落ごとの要点をつかむ ↓ 段落相互の関係をつかむ (文章全体の構成を捉える) ↓ 文章の要旨を捉える

確認問題 3 確認問題1～3の文章を読んで、後の設問に答えよ。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(西垣通「ネットとリアルのあいだ」による)

(注) 筆耕…文書を書き写したり、清書したりする仕事。

問 確認問題1～3の文章は、一続きである。この文章全体の要旨として最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 「情報」には三つの種類があり、それぞれが人間の社会活動に重要な役割を果たしている。  
イ 普通「情報」とは社会情報をさすが、二一世紀の情報社会の特徴は機械情報の氾濫である。  
ウ 二一世紀の情報社会は、生命情報や社会情報を機械情報に置き換える性質をもっている。  
エ 文字も機械情報なので、社会情報は機械情報と本質的には同じものである。    〔    〕

5

・文章の中で、その語句を特殊な意味で使うことを示す  
・その語句に批判や懐疑の意味を込める  
「」のついた語句も、キーワード的な働きをもつことがあるので注意する。

POINT

問 初めに「情報」と「」がつけられており、続く段落でも繰り返し情報という語句が使われている。

プラスα

↓ 一つ一つの段落(形式段落)には要点が見つかからないこともある。たとえば、具体例を列挙している場合や、前後の段落をつなぐ役割だけを担っている場合などである。

あまり機械的に作業しようとせず、前後の段落を見てつながり方をおさえ、意味段落にまとめたいうえで要点を捉える。

↓ 長い文章では複数の要旨があることもある。無理に一つにまとめる必要はない。

POINT

問 「情報」とは何かという問いを出し、答えとして「生命情報」「社会情報」「機械情報」があることと、それぞれの情報の説明を示している。そのうえで、「二一世紀の情報社会」の特徴に関する筆者の考えを述べている。この考えを述べるために、三つの情報についての説明が必要だったのである。

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
 実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

25 20 15 10 5

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
 実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

55 50 45 40 35 30



次の文章を読んで、後の設問に答えよ。(1)～(8)は段落番号である。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
 実際の教材には掲載されておりますので、ご安心ください。

25 20 15 10 5

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
 実際の教材には掲載されておりますので、ご安心ください。

55 50 45 40 35 30

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
 実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(河野哲也「人は語り続けるとき、考えていない 対話と思考の哲学」による)

問一 [A]・[B]に入る語句として最も適当なものを次のア～オから一

- つずつ選び、記号で答えよ。
- ア つまり イ しかし ウ たとえば
  - エ また オ そして
- A (      )      B (      )

問二 [3]段落の要点をまとめた次の文の [a]・[b]に入る語句を、本文

中からaは二字で抜き出し、bは本文中の言葉を用いて十字以内で説明せよ。

哲学の問いは、科学の問いと異なりすべてが [a] で、単純な問題に分解することができず、そのうえ [b] ので、答えを積み重ねていっても答えにはならない。

b	a

問三 ——線①「このような世界」とは、どのような世界か。「世界」に続く形で、[1]～[3]段落中から十五字以上二十字以内で抜き出して答えよ。


世界。

問四 ——線②「それ」の内容を説明したものとして最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 固定し静止した悪しき世界で人間が生きることになってしまう原因。
  - イ ひとつの問題にも答えられないまま世界が固定されてしまう原因。
  - ウ 哲学の問いに、究極の分類と究極の目的が解として与えられた原因。
  - エ 人間が自分の存在価値を疑問視し、世界を止めてしまおうとする原因。
- (      )      (      )

問五 ——線③「引っかからず」とあるが、ここでの「引っかかる」の意味として最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

- ア やっかいな問題に関わり合うこと。
  - イ 他人の監視や規制によって止められ、とがめられること。
  - ウ 疑問を抱き、すっきりしない感じがすること。
  - エ 他人の策略やたくらみにだまされること。
- (      )      (      )

問六 本文の要旨を、本文中の「問いとともに生きる」という言葉を用いて八十字以内で説明せよ。
